

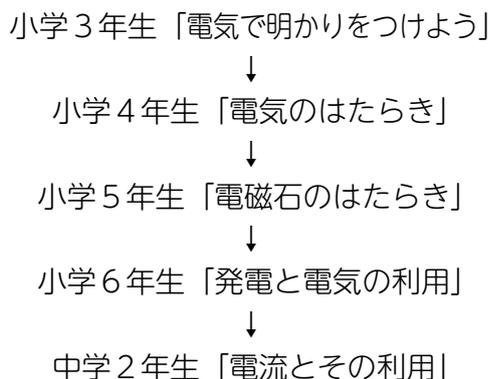


# 伯耆町が進める「保小中一貫教育」とは 子ども達の「15歳の出口」の姿を見通して

第二回

今回は、「中1ギャップ」をより小さくするために、保小中一貫教育が必要であることについて述べたいと思います。

## 「確かな学力の定着」とは？



この図は、小中学校の理科で学習する電気に関する単元(複数時間の授業のまとめ)を抜き出したものです。当たり前のことですが、同じ電気という内容を扱う授業でも、学年に応じて徐々に難しくなります。下の学年で得た知識や技能を活かして、そこに新しい知識や技能を加えることで、より「確かな学力」になっていくように計画されています。

ところが、設計図通りにはならない現実があります。例えば、小学4年生の「電気のはたらき」でつまずいてしまうと、電気の学習全般に対して苦手意識が生まれ、上学年の学習でも消極的になってしまうことが考えられます。

そこで必要となるのが、保小中一貫教育の取組の核である『保小中一貫カリキュラム』の作成です。各教科について、義務教育9年間の学習内容の全体を見渡せるようにし、小学校と中学校の教職員が見通しをもって授業に取り組めるようにしています。また、過去5年間の学力調査などのデータを分析し、本町の児童・生徒がどの学年のどの単元でつまずいているかを洗い出しました。それに基づいて、重点指導項目を明らかにし、それぞれについて指導の改善例を載せていくことにしています。この『保小中一貫カリキュラム』を活用して、日常の授業が改善されることが、「確かな学力」の定着に結びつくことを確信しています。

今回は、広い意味の学力である「人間力」についてお知らせします。

## 本町『保小中一貫カリキュラム』の特色

- 義務教育 9年間の学習内容の見通し
- 本町データ分析による重点指導事項
- 重点指導事項に対する指導改善例



「15歳の出口」における  
「確かな学力」の育成

